

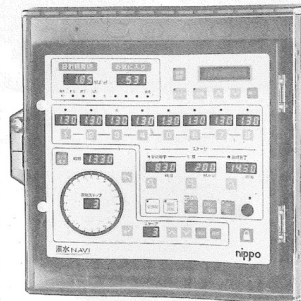
# 小規模農家も遠隔で

ニッポー

## 灌水管理に「灌水NAVI」

【(株)ニッポー(若槻憲一社長・埼玉真川口市2の13の20)が展開する灌水管理装置「灌水NAVI」は、クラウドに対応し、栽培管理の中でも作物の生育に大きく関わる灌水作業の省力削減と、コロナ禍における人同士の接触機会の低減をさらに進めることができる。関心を呼んでいる。同装置は、統合環境制御までは必要がない小規模、雨除けハウスの農家も遠隔でハウスの灌水管理が可能となる。

機能拡張性に優れた「灌水NAVI」は、水の管理と施肥の管理を自



灌水NAVIのコントロールパネル。しかし、灌水NAVIを使い自動化

することで、灌水作業の労力と巡回の頻度を減らせ、人との接触機会を削減できる。

▽いつでも自動化できる灌水システム。最大8系統の灌水管理し、日射積算による自動灌水の他、設定した時刻に各系統を順次灌水する「タイマー灌水モード」や外部機器からの信号を受けて各系統を順次灌水する「外部連動モード」に切り替え可能。また、1日に指定した回数だけ灌水に液肥を混入させて施肥を行うこともできる。今回のクラウド対応により、いつでもどこでも遠隔での灌水管理が可能になり、省力化、作業の効率化に貢献できると期待されている。

▽遠隔で灌水管理できるメリット】  
▽自動灌水と遠隔モニタリングで接触機会を低減しこれまでの灌水作業は各圃場を回り、その日の天気や経験をもとにタイミングや灌水量を変え、バルブの開閉や灌水ポンプの操作が必要だった。どこでも遠隔灌水管理で安心し外出先からスマートフォンやタブレット端末を使ってハウスの灌水状況を把握可能。設定通りの灌水ができていないか、灌水量や灌水回数に異常がないか、作物の生命維持につながる大事な灌水状況を遠隔管理できるため、安心して他の作業に集中できる。  
▽拡張機能で複数の環境をモニタリングし各コントロールと接続すれば温度・湿度・飽差・炭酸ガスのデータ収集、モニタリングができるため、環境測定器としても使用可能。複数の環境をモニタリングすることで、栽培環境や管理方法の見直し、従業員とのデータ共有、後継者の育成などに役立つ。  
製品に関する問い合わせは同社(☎0488・255・0066)まで。

2020年10月19日(月)農経しんぼう